香港の中国語新聞『大公報』の1959年の記事に見る インドネシア華人の移動

Return of the Overseas Chinese from Indonesia to China in 1959 as seen in the articles of Ta Kung Pao, a Chinese Newspaper in Hong Kong

芹澤　知広*

Satohiro SERIZAWA

要旨

『大公報』は、1902年に天津で創刊され、今も香港で発行され続けている、中国でもっとも歴史のある中国語新聞である。とりわけ1948年に香港で復刊されてから後の時代には、香港の左派勢力（中華人民共和国を支持する立場）を代表する中国語新聞となり、冷戦時代には、香港の住民に彼らの故郷である広東省の状況を伝え、新中国の発展を宣伝する重要なメディアであった。そのため、奈良大学図書館が所蔵する1959年から81年にかけての『大公報』の原紙には、当時、東南アジアの華僑が香港や広州を経由して中国に帰国、定住する様子についての興味深い記事が多く含まれている。そのなかで本稿では、インドネシアにおいて華僑の商業活動を制限する法令が出された1959年に焦点をあてて、インドネシアから中国への華僑の帰国にかかわる記事を、とくに国貨公司、華僑農場、留学（進学）に焦点をあてて紹介する。

キーワード：香港、中国語新聞、インドネシア華人

Ⅰ　本稿の位置づけ

本稿は、平成24年度奈良大学総合研究所研究助成を得て行われた研究課題「中国語新聞『大公報』と20世紀の中国本土と香港の社会」の成果について報告することを目的としている。

本研究課題は、平成22年度の特別集書として奈良大学図書館が購入した『大公報　全164冊 1902. 6－1949. 1』と、すでに奈良大学図書館が所蔵する香港の新聞『大公報』の1959年から81年にかけての新聞原紙とを用いて、奈良大学図書館の企画展示を行ううえでの基礎研究を行うことを目的としていた。その成果を一部展示した、奈良大学図書館の企画展示「香港の新聞『大公報』とその周辺Ⅱ」（2012年12月12日～ 2013年３月20日、奈良大学図書館展示室）については、筆者

2013年９月26日受理　*社会学部社会調査学科教授

の別稿を参照されたい［芹澤　2013］。

中国語新聞『大公報』については、すでに別稿でも紹介したが［芹澤　2011：45－46］、基本的な情報をあらためて提示しておくことにしたい。

『大公報』は、1902年に英斂之によって天津で創刊された。当初、北京のカトリック教会のフランス人主教や中国駐在フランス大使からも資金援助を得ていたため、創刊時はフランス租界に社屋を設けた。1902年６月７日の創刊号では、「本館開設天津法租界」としか書かれていないが、その後の新聞には、「本館開設天津法界得律風三百二十三」と書かれてある。

英斂之は、立憲君主制を模索していたが、日露戦争後の日本への関心の高まりが災いし、『大公報』の社屋はフランス租界を追われ、1906年に日本租界へと移った。1906年９月４日付の『大公報』には、「日本租界四面鐘対過新館」とあり、1931年11月16日付で再度フランス租界へ移るにあたっては、「本館向設日租界旭街廿七號」とあって、1906年に新しく社屋が建設され、同年から31年まで、日本租界の旭町27番地に『大公報』の社屋が置かれたことがわかる。

中国・天津市に残る旧『大公報』社の社屋の建物
（2013年３月筆者撮影）

なお本研究の一環として、筆者は2013年３月に天津を訪れる機会をもち、現在の和平路に、この日本租界時代の『大公報』の社屋の現存することを確認した。現在もこの通りには、時計台があり、その向かいには、かつて社屋に使われた建物が今は別の用途で使われている（写真参照）。

当時すでに『大公報』は、全国紙として地方版が発行されていたが、天津の『大公報』は1937年に日本軍によって天津が陥落すると停刊した。奈良大学図書館蔵の『大公報』の影印復刻版には、1937年以降に漢口に移って発行された『大公報』が収められている。

香港で現在発行されている『大公報』の起源は、1948年３月15日に『大公報』が香港で復刊されたことにさかのぼる。残念ながら、奈良大学図書館が所蔵する『大公報』の原紙は、1959年以降のものであるため、復刊時の原紙はないが、奈良大学図書館の所蔵する『大公報創刊九十五周年在香港復刊四十九周年紀年冊』という資料に、復刊時の紙面の写真が載っているため［大公報香港有限公司　1997：77］、企画展示では同書の該当頁を開いて展示することで、復刊時の紙面を紹介した。

天津時代の主要人物である胡政之が上海から香港へ移って来て復刊したが、胡政之が病気療養のために上海へ戻ると、『大公報』は中華人民共和国を支持する立場を明確にした。この時以来、『大公報』は、香港を代表する左派勢力（中華人民共和国支持派）の新聞となった。そのため、奈良大学図書館所蔵の資料と重なる1950年代から80年代にかけての冷戦時代、『大公報』は香港の住

民に対して新中国の輝かしい発展を宣伝するための重要なメディアであった。

本研究課題においては、『大公報』に焦点をあてているとはいえ、20世紀の中国本土と香港の両方を広範囲に取り扱うことは、研究を遂行するうえでも、奈良大学図書館の企画展示を準備するうえでも、とうてい無理であった。そのため、本研究においては、20世紀後半の香港の『大公報』が、香港の左派勢力を代表する新聞であったことから、1959年から1960年代前半にかけての中国本土と海外の華僑社会との関係を報じた記事を抽出して整理し、研究を進めることにした。

すでに別稿にて示したように［芹澤　2011］、この時期の左派勢力を代表する都市施設としては、中華人民共和国の製品を売る「国貨公司」というデパートが香港にあった。このデパートは、1957年に広州交易会が始まって後、香港で1958年以降に多く開業することから、1959年以降の『大公報』に多く記事が載るものと考えられた。

実際に記事を抽出する過程で明らかとなったが、1959年から61年にかけての『大公報』の記事のなかで、大きな話題として取り上げられていた事柄のひとつは、インドネシアにおける「排華」（華人排斥）であった。インドネシアでは、1959年5月の商業部長決定書、及び1959年11月の第10号大統領令において、華人の商業活動に大きな制限が設けられた。県より以下のレベルに居住する外国人の小売商は、1959年12月31日には営業を停止し、合作社、インドネシアの中規模企業、インドネシア人の小売商やインドネシア籍の国民にその事業を譲渡しなければならなくなり、都市部へ移住した華僑の住居は、軍部が管理することになった［黄　2000：192－194］。この出来事をきっかけに、この時期に多くのインドネシア華人が、中華人民共和国へと帰国することになった。

なお、別稿で示したように［芹澤　2011］、1950年代後半に香港で国貨公司を開業した人々のなかには、インドネシア華人、とくに広東省梅州市（旧「嘉応州」地域）に祖籍をもつ「客家」の人々が多く含まれていた。そのためインドネシアについての記事を抽出することと、国貨公司についての記事を抽出することとは、結果的に一部が重なることになった。

興味深いことには、香港が歴史を通じて東南アジアへの移民の送出と中国の郷里への帰還における重要な港であり、また冷戦時代の香港は、「東洋の真珠」として中国大陸に残された「西側」の重要な基地であったことから、インドネシアと中国のあいだの国際関係と、それにともなう人々の移動と物資の移動において、香港がきわめて重要な役割を果たしてきたことが、『大公報』の記事から具体的に見てとれるということである。『大公報』は香港の新聞であるため、中国本土についての記事がまんべんなく掲載されているのではなく、香港の多くの住民の出身地であり、香港に隣接する広東省の記事が多い。1959年から60年にかけてインドネシアを離れ、中華人民共和国に受け入れられた華人は、まず船で香港や中国広東省の港に着き、そこから陸路で広州へ行ってから、中国各地に配属されたようだ。そのため、『大公報』の香港や広州に関する記事に、インドネシアから中国に帰国した華人の記事が多く載ることになる。

ちょうど筆者は平成24年度に入り、京都大学図書館の北村由美准教授が研究代表者となって同年度から始まった科学研究費補助金による研究課題「20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動」に、研究協力者（現在は研究分担者）として参加するよう、北村准教授から要請を受けていた。そのため、さらにインドネシア華人の問題に関心をもって記事を抽出することにした。

そしてその中間報告を、2012年12月15日に、奈良大学図書館にて、北村准教授の科学研究費補助金の研究課題と共催のかたちで、「奈良大学図書館企画展示『香港の新聞「大公報」とその周辺Ⅱ』関連研究会」として開催し、「香港の新聞『大公報』に見る、1960年のインドネシア華人」という研究発表を行った。

本稿においては、その発表内容を踏まえ、インドネシア華人の移動の問題に話題をしぼり、以下ではとくに、国貨公司、華僑農場、インドネシアから中国への留学（進学）という３つの話題について、関係記事を紹介することにする。

なお、『大公報』のインドネシア関係記事は、1960年に入って増加し、1961年には減少する。1959年には、「華僑」一般の記事が多いが、1960年には「印尼華僑」（インドネシア華僑）へと話題や言葉使いが特化していく。また、1959年の初期の記事では、具体的な人名が出てこないが、1959年の後期から1960年にかけては、インドネシアから帰国した何某という、具体的な人物の紹介をするようになる。これらの経年変化は、たいへん興味深いが、本稿ではひとまず、1959年の『大公報』の記事を紹介することにし、1960年以降の『大公報』の記事については、後日に別稿を用意して紹介することにしたい。

本稿がデータとして用いる、1959年の『大公報』から抽出した「国貨」や「華僑」に関する記事は、全部で322件である（巻末の表参照）。これらを撮影して整理する作業を行ううえでは、曾璟蕙女史（奈良女子大学大学院博士課程）の助力を得た。ここに記し、感謝の意を表する。

以下で記事を紹介する場合には、便宜のために表に対応する整理番号を合わせて記す。

Ⅱ　国貨公司に関する記事

1959年の『大公報』の記事にどのような国貨公司があらわれるのかということを、まずは時系列に沿って紹介しよう。

1月25日の記事（590125b）では、「中国傢俬公司」の開業と「聯中国貨公司」の拡張開業のニュースが載っている。「中国傢俬公司」は、500人を招くパーティーを行い、展示室に置かれた厦門（アモイ）、広州、上海などで製作された家具が、その場ですぐに売約済になったことが報じられている。

旧暦の正月が明けた２月12日の記事（590212e）では、「中天」、「宏興」、「永成」、「中寧」の４つの国貨公司が共同で、「中国酒家」にて新年を祝う「春茗聯歓」の宴会を催し、200人の出席者のあったことが報じられている。

５月３日の記事（590503a）では、新界の市場町・元朗に「新新百貨公司」が今日オープンすることが報じられている。嘉属商会理事長であり、中僑国貨董事長でもある孫城〔ママ〕曾がテープカットを行っている。その日に先立つ、３月23日の記事（590323b）にも、この店の開業の予告がされている。その記事によると、「港九」（香港島と九龍半島の都市部）では、国貨を愛用する同胞が益々増えてきている状況であるが、今まで元朗から都市部へ出て国貨を買って帰るのには時間がかかった。しかし現在、「某華僑」が、元朗で国貨公司を開くべく準備中であると書かれている。

なお、この『大公報』の記事では、「某華僑」としか出ていないが、この人物は、インドネシアから帰国した客家の黄志文であることがわかっている［麗的呼声日報　1959：192］。梅州客家の代表的な商業団体である「旅港嘉属商会」（現在の「香港嘉応商会」）の理事長の孫城曾（孫縄曾）を招いたのも、インドネシアの客家という同郷関係からであろうと想像される。

同じくインドネシアの客家によって開業され、現在の香港の代表的な国貨公司である「裕華国貨公司」の開業に関する記事も、1959年５月の『大公報』に見える。しかし、５月12日の記事（590512a）では今月下旬にオープンとあり、５月26日の記事（590526a）では、来月６日にオープンとあるから、予定よりも遅れ、６月になって開業することになったと思われる。

このほか、６月30日の記事（590630b）には、「華章国貨公司」が翌７月１日にオープンし、謝賢など、映画スターがテープカットを行うことが報じられている。

９月29日の記事（590929c）では、「中国国貨公司」が新しい場所にオープンした時の様子が報じられている。おそらく前日９月28日の出来事と思われるが、呉楚帆ら、テープカットをする映画スターを見るために、千人を超える客が押しかけたという。入り口には、ランタンが並んで取り付けられ、中華人民共和国建国十周年を祝う標語や装飾が掲げられていたのも人目を引いたと書かれている。

この新しい「中国国貨公司」は、ヘネシーロードの488－496号にある「軒尼詩大廈」に設けられた。その後、ヘネシーロードをはさんだ同地区の反対側に日本の百貨店「大丸」が出店し、コーズウェーベイ（銅鑼湾）のこの地区は、現在にいたるまで、商業地区としてたいへんな賑わいをみせることになった。

それでは、国貨公司のどのような商品が香港の市民に歓迎されたのかを、次に見てみることにしたい。

１月31日の記事（590131b）では、中国人の正月用品である「年貨」の入荷したことが報じられている。見出しに「糖果、瓜子、年糕、煎堆、醇酒、水果等陸続上市供応」とあり、「年貨」が正月用の食品であることがわかる。本文では、それぞれの食品名が詳しく紹介されていて、中国各地の特産品であることがわかる。地名の付いているものを挙げると、「天津的杏脯」、「北京新遠斎的餞紅果」、「上海的松子軟糖」、「江門的有枝葉連着的紅桔」などがある。

また同日の別の記事（590131c）では、国産の靴の偽物の、香港製の靴が出回っていることに注意を向けている。国産の「回力」ブランドの運動靴は、本物は商標の中に「T.T. RUBBER FAC.」という英文があるが、偽物の香港製には英文が書いておらず、「回力籃球鞋」という中国語が書かれてあるらしい。

２月15日の記事（590215d）では、春物の衣服が到着したことが報じられている。見出しには、「新欵北京呢有成盤」とあり、生糸と羊毛を交互に混ぜて織った新素材で、春物にぴったりの「北京呢」をとくに推薦している。なお、「呢」は「ニット（knit）」の音訳であろう。

香港は、春には湿気が多くなる。３月１日の記事（590301b）では、寒気を感じたり、じめじめしたり感じる季節には国産の薬酒がよいとして、汕頭（スワトウ）の廣豊泰酒廠の「長春酒」、北京の同仁堂の「虎骨酒」、上海の蔡同徳堂の「虎骨木瓜酒」、それから香港、広州、梧洲の蛇酒が紹介されている。とくに興味深いことには、北京同仁堂の「虎骨酒」が早い時期からインドネ

シアやシンガポールで売られるようになったこと、そして近年はインドや「東太平洋」でも売られているということが書かれてあり、その効能の素晴らしさが海外で認められていることを強調している。

3月17日の記事（590317a）では、香港政庁が化粧品への課税をやめたため、国産の化粧品の卸価格が下がったことが報じられ、3月20日の記事（590320a）では、その日から国産化粧品の小売価格が下がることが報じられている。そして、国産化粧品の値下げを決めた国貨公司の店名が17あげられている。

4月7日の記事（590407a）には、「中孚行」が卸す最新の国産玩具3点が紹介されている。通話ができるプラスチックの電話、尻の光る電動ホタル、乾電池を使う電子計算機である。このうち、電話と電動ホタルについては写真も載せられている。

4月14日の記事（590414a）は、小さな広告のような赤い線で囲まれた記事であるが、聯中国貨公司の中国のレコード販売を報じている。見出しと本文の全文を記すと、次のようである。

「聯中国貨公司分銷中国唱片　【本報訊】筲箕湾道二八〇号聯中国貨公司今日起分銷中国唱片、有京、越、滬、潮、粤等歌曲和民間楽曲、並有楽器出售、従即日起至廿日止九折優待顧客。」

「京」は北京、「越」は浙江省、「滬」は上海、「潮」は広東省潮州地方、「粤」は広東省のことである。ここで「分銷」（小売）という言葉が使われ、わざわざ囲み記事として報じられていることを考えると、国貨公司では中国のレコードをふだんは置いていなかったのかもしれない。なお、中国国貨公司の50周年誌には、1950年代には中国のレコードをインドネシアの客家（「印尼客幇」）が多く買ったが、後にはインドネシアへの輸出が禁止されたという記述がある［中国国貨有限公司　1988：35］。このことを考えると、香港の国貨公司において中国のレコードは、インドネシアで小売されるために客家の仲買商に卸売されていたのではないかと思われる。

12月10日の記事（591210b）と12月11日の記事（591211b）は、12月10日から始まった中国皮鞋公司の「国産皮衣、皮手套介紹周」（国産皮ジャン・皮手袋ウィーク）について報じられている。紳士用、婦人用ともに、今年は新しいデザインのものが市場に出たことが強調されている。

1月から2月の新年の時期には、本年（1959年）の百貨店業の市況を占うような記事が載っており、年末の12月には本年の百貨店業の市況を総括するような記事が載っている。

1月12日の記事（590112c）は、「呈」というペンネームの署名が付いたコラム記事である。その題名は、「国産百貨的生意」（国産百貨のビジネス）というものである。このコラムの著者は、国産百貨を専門に、あるいは兼ねて扱う小売商店が増えていること、そしてこの一年のあいだに卸売商も増えたことをまず指摘する。そして、資金のある卸売商も、資金のない卸売商も、中国本土へ直接品物を買い付けなければならなくなっているとし、その理由として、「有些南洋客幇買貨要指定買貨国産百貨」（南洋客幇のなかには、国貨を指定して買い付けに来る者もいる）ということがあるという。ここでの「南洋客幇」を、南洋から香港へ来た「南洋客」のグループと読むこともできようが、上記の中国のレコードのように、インドネシアでは客家が、中国、香港、インドネシアでの中国製品の流通を担っていたことを考えると、「南洋」の「客幇」（客家のグル

ープ）と読むのが自然だと思われる。

このコラムの著者は、さらに国貨を香港の外へ売る商売が増えていることを指摘するが、東南アジア諸国の経済がよくないので、数量としてはそれほど規模がないことも書いている。そして、ヨーロッパやアメリカ、日本の品物を扱う百貨業と比べて、国産百貨業が香港で盛況であることの理由として、次の４つの点を指摘している。（１）衣服などの、価格が手ごろな商品の他、化粧品などの高級品においても、国産品の種類が増加していること。（２）国産品は品質がよく、毛織物で「純毛」と書いてあれば必ず「純毛」で、品物が嘘をつかないこと。（３）化粧品の瓶がすでに美しくなったように、国産品は包装の改善の進歩が速いこと。（４）香港、マカオの同胞と、南洋の華僑の「愛国」の情が高まり、喜んで国産品を使っていること。

旧暦の正月が過ぎて、商売も再開された２月16日の記事（590216d）は、「老丁」という署名があり、「光顧百貨的人会多嗎？」（百貨業の顧客は増えるか）というタイトルが付いている。このコラムの著者も、百貨業の不況のなかで国貨を扱う商売だけは好調であると指摘している。また、このコラムでは、東南アジア各国への輸出入（このラインを「南線」と総称している）の現状が示されていて興味深いが、とくにインドネシアについてここでは紹介する。

このコラムの著者によれば、インドネシア方面への輸出（「印尼線」）は好況である。シンガポールへも相当量の輸出があるが、これはインドネシアがシンガポール経由で輸入しているためであるという。香港で貿易業に携わる業者（「弁庄」）は、インドネシアの特産品を輸入し、替わりに「百貨」を香港で買ってインドネシアへ送っているが、その数量は多く、前年度と比べても、さらに好調であるという。

別の２月16日の記事（590216e）は、「胡士燈」という人名のサインがそのまま印刷された署名のあるコラムである。タイトルは「百貨業展望」である。このコラムの著者によると、前年の香港百貨業が未曽有の不況だった原因としては、香港の不況による購買力の低下と、南洋から香港へ買い付けに来る「水客」が減少することで、「南洋弁庄」の扱う商品の数量が減ったことがあるという。このコラムでは、香港の百貨業の展望はあまり明るいものではないが、最後に国貨について言及し、1958年の「大躍進」の下で輸出される商品の種類も多くなり、価格も納得のいくものなので、香港市民に歓迎されていると付け加えている。

年末12月29日の記事（591229d）では、「港九華洋百貨業総商会」の李炳輝理事長が、1959年の百貨業を総括した発言をしたことが報じられている。総論としては「平穏有利」で、安定して利益が上がった。とくに国貨には言及していないが、香港内の市場については、工業化が進展し、市民の就業機会が増え、多くの工場が三交替制のために労働者の商品への需要が高まり、小売店舗にも利益がもたらされたと説明されている。具体的には、1959年の雨季の雨量が記録的であったため、傘や雨具やゴム靴がよく売れたという。インドネシアの華僑排斥の影響については、何も言及がない。

Ⅲ　華僑農場に関する記事

1960年代に香港に滞在し、中国と香港の新聞を調べて、中華人民共和国における帰国華僑につ

いての先駆的な研究を著したステファン・フィッツジェラルドは、華僑の帰国についての中華人民共和国の受け入れ政策は、「もともとの出身地、なかでも原則は農村地帯に再定住させ、特殊技能を持った人々を適切に活用する」という、1956年のスローガンに代表されるという［Fitzgerald 1972: 69］。

そして、帰国した華僑のおよそ半分を占める、頼るべき親類もなく、技能も資金もない人々の再定住先として中国政府が用意したのが、「華僑農場」であった。1959年までに９つの華僑農場が設置され、その最初のものは、マラヤからの帰国華僑を受け入れるため、海南島に1951年に設けられた「興隆華僑農場」である［Fitzgerald 1972: 70］。

なお、田中恭子は、華僑農場を扱った論考において、フィッツジェラルドの当該研究に依拠しつつも、フィッツジェラルドがこの農場の名を「興隆」としているのは誤記だと指摘し［田中 2002：372］、「興陵華僑農場」として記述している［田中　2002：291］。しかしながら以下で見るように、1959年の『大公報』の記事では、一貫してこの農場は「興隆」として書かれてあるため、1950年代当時の名称は確かに「興隆」であったと考えられる。

２月16日の記事（590216c）では、１月下旬に広東省の僑務工作の会議が開催されたことが報じられ、その中で、「興隆」、「陸豊」、「花県」の3つの華僑農場が、ゴムやコーヒーなどの亜熱帯作物を大量に植えており、1958年の総生産量は、過去3年半の総生産量の倍の量にあたると書かれている。

また、４月１日の記事（590401c）では、興隆華僑農場の亜熱帯作物の植え付け量が、1959年にはさらに増えていることが報じられている。

４月21日の記事（590421b）は、「本報記者克夫」の署名のある「参観興隆人民公社」というタイトルの付いた、この興隆華僑農場の訪問記である。この記事では、３月22日の午前にコーヒー園や、レモングラスの加工工場を案内されている時に通った託児所で、まるまると太った子供たちから元気な挨拶を受けたエピソードから話を始め、この農場の教育施設、社会福祉施設がいかに整備されているかを強調している。どのような施設があるのかを、そのまま該当部分を訳して示すと、以下のとおりである。

> 「公社の責任者が私たちに言うには、興隆人民公社は生産面において経営が成功しているだけではなく、生活福利の面でも日々向上を遂げている。公社全体で、基本的には文盲はなくなり、教育が普及している。小学校は36校、中学校は４校、各生産隊には、それぞれ託児所、幼稚園、老人ホームがある。公社には、独自の映画製作グループ、文芸活動グループがあり、現在、広東オペラ、海南オペラの劇団の結成が計画されている。各生産単位は、趣味のための教室や各種の運動クラブがあり、週末や休日には、あちこちに人々が集まって体育活動や文化活動が積極的に行われている。」

『大公報』の記事に言及される華僑農場は、興隆のほかにもある。５月28日の記事（590528a）には、上記の「興隆」、「陸豊」、「花県」に加えて「翁源」の、４つの広東省の農場は、すべて政府が資金を出して設置したもので、すべて農夫は帰国華僑で、合わせて８千人以上になることが書かれ

ている。なお、海南島は、1988年に海南省として省に昇格するまでは、広東省に含まれていた。

華僑農場は、広東省以外にも設置されていた。7月28日の記事（590728a）は、福建省の常山農場のパイナップルや早稲の収穫について報じている。

12月9日の記事（591209c）は、「粤閩華僑農場越弁越好、成為万多帰僑幸福家園」（広東省と福建省の華僑農場経営が向上、帰国した華僑多数の幸福な家になる）という見出しで、当時のインドネシアの華僑排斥事件の報道と関係して、1950年代の華僑農場への帰国華僑の受け入れを総括している。この記事によると、1951年の興隆華僑農場の設置を皮切りに、中国政府が開設した華僑農場は次の8つである。「興隆」（広東省）、「保亭」（広東省）、「花県」（広東省）、「陸豊」（広東省）、「翁源」（広東省）、「長〔ママ。「常」の誤りか〕山」（福建省）、「北碇」（福建省）、「武鳴」（広西チワン族自治区）。このほか、華僑が投資して設置された華僑農場が26ある。

12月15日の2つの記事（591215d、591215e）では、興隆華僑農場と「国営広西華僑農場」が、それぞれ農場の責任者がインドネシアを追われて帰国する華僑の受け入れを歓迎する発言をしていることを報道している。なお、この記事（591215e）の「国営広西華僑農場」は、「去年の4月に開設された」と記事にあり、フィッツジェラルドの表と対照させても［Fitzgerald 1972: 208-209］、「武鳴華僑農場」のことを指していると想定できる。

常山華僑農場を扱った12月18日の記事（591218e）は、より具体的に、インドネシア華僑の帰国受け入れのために10数棟の建物を新築することを報じている。この記事では、1952年12月の開設後、最初に15歳で入植したマラヤからの帰国華僑男性が今では21歳になり、共産党に入党して今年の春には同じ農場内に結婚相手を見つけたことを具体的に書いた後、先月にインドネシアから帰国した華僑の証言を具体的に書いていることが、たいへん興味深い。訳出すると以下のようになる。

> 「今年の11月にインドネシアから帰国した華僑の黄希源、蔡成線ほか、5家族30数人。農場に来てすぐ、家具の揃った各自の家に分かれて住んだ。彼らは農業生産に慣れていないため、農場では果樹の枝を切るなど、比較的簡単な仕事が与えられている。家族9人の曽雲瓊が感激して言うには、『国外にいる時には、2人の大人が一日中いっしょうけんめいに働いても家族を養うことができず、子供は学校へ行けなかった。ここでは、私は農業生産に参加し、妻は託児所で働いている。2人の合計収入は毎月40数元。このほか農場が月ごとに養育費の補助をくれる。子供は無料で学校へ行ける。家族みんなが楽しく過ごせる。祖国はほんとうに親切だ。』」

『大公報』の記事のなかで、華僑農場よりも多く取り上げられているのは、「華僑新村」である。フィッツジェラルドの説明では、帰国華僑のなかの少数の人々は、中国へ投資することができるほど裕福であったり、中国共産党から「代表的な」華僑であるとみなされたりすると、都市部の華僑用のマンションや都市部の村に住むことが許されたという［Fitzgerald 1972: 70］。この都市部の華僑用の村が「華僑新村」であり、とくに『大公報』では、広州市の華僑新村が頻繁に紹介されている。

1月9日の記事では、広州黄花崗付近の華僑新村で、民間の華僑食堂が開設されたことが報じられている。その見出しには、「馬師曽及許多知名帰僑都是全家参加」（馬師曽をはじめ著名な帰国華僑が一家で食事をとっている）という一文もあり、著名な粤劇俳優の馬師曽が顧客であることを出して、この華僑新村と華僑食堂の魅力をアピールしている。

2月3日の記事（590203a、590205a。整理番号では後者は0205となっているが、同じく2月3日の記事である）は、上記の華僑新村と華僑食堂についての写真と文章である。文章の筆者は、「本報記者曙東」、タイトルは「華僑新村新事－新村裏的公共食堂和縫紉組」である。これら公共食堂と裁縫グループは、前年の12月に組織された。公共食堂の管理委員会の首席であるインドネシアからの帰国華僑、蕭叠昌が、帰国華僑の口に合う「南洋菜」（東南アジア料理）のメニューをもっと入れるよう準備していると発言したことも書かれている。また裁縫グループは、食堂の建物の2階に30台のミシンを置いて、30数人の女性が活動しているが、そのなかでもっとも多いのがインドネシアからの帰国華僑であるという。彼女たちはインドネシア語で会話をするので、インドネシア語のわからない女性たちも、いくらかはインドネシア語を学ぶことになったということも書かれている。インドネシアのメダンから帰国した金英という女性の発言と、彼女が作った次の詩もこの記事のなかで紹介されている。

「社会主義幸福長、大家和気在一堂、僑村成立縫紉廠、搬来衣車做衣裳」
（社会主義の幸福は続く。楽しくみんな同じ建物の中。華僑の村に裁縫工場ができた。ミシンを持ちこみ衣服をつくる。）
「人民公社開紅花、新村姐妹笑哈哈、勤労生産勤学習、集体生活確不差」
（人民公社に赤い花が咲く。華僑新村の女性たちが笑う。勤労生産をして学習につとめる。集団生活は確かにわるくない。）

2月12日の記事（590212d）には、2月10日の午後、この華僑新村内の「華僑小学」の講堂にて、「帰僑」（帰国華僑）、「僑眷」（帰国華僑の親族）、「港澳同胞」（香港・マカオの住民）が4百人集まって「春節聯歓」のパーティーが行われたことが報じられている。この時には、様々な出し物があり、華僑新村の帰国華僑と、華僑新村が含まれる広州市東区の帰国華僑、広州師範学院附属中学の華僑学生、華僑新村にある華僑小学の教師と児童が参加した。華僑新村のインドネシア華僑が、インドネシアの服装をして歌と踊りを披露したことも書かれている。

4月11日の記事（590411a）では、広州華僑新村の拡張計画が報じられている。華僑新村は1955年の秋から建設され、港澳同胞が建てたマンションも最近落成した。新しい建設委員会が組織され、1959年も続けて家屋の建設が予定されている。

8月27日の記事（590827a）では、広州華僑新村に新しい建物が落成したことを報じ、その地区がきれいな住宅地区として整備されつつあることを以下のように書いている。

「華僑新村にまた新しい建物が加わった。この数か月のあいだに、すでに6軒の庭付きの家が建設されたが、最近また4軒が一度に契約され、それぞれ着工されている。この10軒の家

のうちの何軒かは香港同胞のものである。また何軒かは華僑のもので、内部の設備もよく考えられたものである。これらの新しい家が建てられているのは、華僑新村の後ろの黄花崗の公園地区で、マングローブ林の風景はとても美しい。すでに20から30の新しい家が建ち、道路もでき、街灯も付けられて、たいへん静かである。別荘の並ぶような美しい村ができあがっている。」

広州以外にも、華僑新村は存在した。4月21日の記事（590421a）によると、福建省厦門の華僑新村は1957年にすでに建設が始まり、家主に家屋が渡されている。

また6月20日の記事（590620a）では、広東省汕頭の華僑新村に20戸の住宅建築が落成し、インドネシア、タイ、カンボジアなどからの帰国華僑が近日入居の予定であることが報じられている。この記事によると、この汕頭の華僑新村は、汕頭市の東北の郊外、華塢郷と金砂郷のあいだに位置し、汕頭から樟林へ行く道路沿いで、循環バスに乗れば汕頭市の中心から10分の場所だという。

このほか、2月15日の記事（590215a）では福建省南安県、6月8日の記事（590608b）では広東省江門市、8月7日の記事（590807a）では福建省古田県、8月17日の記事（590817c）では福建省龍岩県に、それぞれ華僑新村の建設計画のあることが報じられている。

また、9月30日の記事（590930c）では、華僑のための「公寓」（マンション）が上海に落成したことが報じられている。その物件についての説明を訳すと以下のようになる。

「7階建のビル。場所は環境良好、交通便利な衡山路。総面積は4100平方メートル。設計上は35戸が居住可能。各戸とも寝室、居間、納戸のほか、独立したキッチンと、ガス湯沸かし器のある浴室が完備。2階以上は各戸にベランダがあり。屋上には物干し台も。」

Ⅳ　インドネシアから中国への留学（進学）に関する記事

先にも指摘したように、『大公報』にはインドネシアから帰国した華僑が広州に到着するという記事が多く載せられている。その理由としては、『大公報』が香港の新聞として隣接する広東省の記事を多く載せていたということ以外にも、当時のインドネシア華僑の帰国にとって広州が重要な経由地となっていたことが考えられる。

例えば、3月18日の記事（590318b）の「南洋華僑僑生二百多人抵穂」（南洋の華僑と華僑学生200人以上が広州に到着）では、次のように香港から深圳へ入った帰国華僑を報じている。なお、多くの記事は華僑学生のことを「僑生」と書く。また広州の別名「穂城」に因んで、「穂」の字でもって広州を指す場合も多い。

「『芝利華輪』に乗って帰国した、272人のインドネシア、シンガポール、マラヤの華僑が、〔3月〕14日安全に広州に着いた。彼らの多くは里帰りと観光。一部分は、帰国して進学する学生、また少数の者は帰国定住のために引っ越して来た。『芝萬宜輪』に乗って460数人の華僑が帰国した前回の場合と同じく、深圳に着いた時は春の雨で、広東省華僑旅行服務社から派遣さ

れた数十人の職員が、1人ずつ傘をさして深圳の橋のたもとに帰国華僑を迎えに行き、〔広州への〕車の待合所に送って行った。加えて、荷物を持ってあげたり、子供を抱っこしてあげたり、老人を支えてあげたりしたので、華僑同胞はみんな感激した。」

この記事に出てくる「芝利華輪」や「芝萬宜輪」は、ジャワ会社（「渣華公司」）の郵船に使われた客船である。

6月21日の記事（590621b）にも、ジャワ会社の「芝利華」が、インドネシアを経ち、シンガポールを通って昨日香港に到着したこと。そこに1,150名の帰国華僑が乗船していて、その大部分が進学希望の学生であることが報じられている。そして同記事には、同じくジャワ会社の「芝沙丹尼」が、南アメリカから、南アフリカ、シンガポールを通って昨日香港に到着し、その乗客のなかに100人のシンガポールからの帰国華僑が含まれていることが報じられている。

海洋史研究家のReuben Goossens がインターネットにあげている情報によると、「渣華公司」と訳される、オランダの郵船会社の「the Koninklijke Java-China Paketvaart Lijnen（KJCPL）」と、「Royal Interocean Lines（RIL）」が、それぞれ1902年にアムステルダムに設立され、ジャワ会社の本社は香港に置かれた。ジャワ会社が建造した「Tjiluwah」（中国語の音訳が「芝利華」）は、1950年4月29日に、「Tjiwangi」（中国語の音訳が「芝萬宜」）は、1951年4月28日に、それぞれ進水式を行った。そして、1960年7月に「芝萬宜」が、その一か月後には「芝利華」が、それぞれオーストラリア－日本間の航路に転用されるまで、1950年代の10年間は、この両客船は、インドネシア－香港間の航路に用いられたという［Goossens　制作年不詳］。

また、「印尼巴中校友会」というインドネシアの華僑学校の同窓会のホームページに載せられた、戊艸〔ペンネームと思われる〕の「上世紀転載東南亜華僑学生回国的海輪」という文章によると、これら「芝」の字の付く船はスラバヤからジャカルタへ来るので、この文章の筆者はジャカルタの第3埠頭で乗船したという。そして、次の日に「文島」〔バンカ島の港、Muntok〕の海上に船は停泊し、そこでまた華僑学生を乗せ、北上してメダンに泊まり、そこでも華僑学生を乗せて、シンガポールへ向かったという［戊艸　2013］。

このような、東南アジアから香港経由などで広州へ入ってくる華僑学生のおよその人数については、3月21日の記事（590321a）に記述がある。その記事によると、1949年から57年までのあいだに、広東省の関係部門の接待を経て帰国した華僑学生は、26,840数人あり、最近の一、二年では、帰国する華僑学生は毎年4千人以上いる。広東省の関係部門は、1954年に広州に広州市帰国華僑学生中等補習学校を開設し、1957年には汕頭に分校を開設した。1956年に、この補習学校で学んだ華僑学生は、1,299名。そのうち、正規学校に進んだ者は、1,255名（96.6パーセント）。1956年の夏休みに新たに帰国した華僑で、補習を受けなかった学生が正規学校に進んだ割合は、33パーセントなので、補習学校での受験準備の成果の大きいことがわかる。また、この記事では、「広州第五中学」、「広州第六中学」、「広州第二十二中学」などの、華僑学生が比較的集中した学校では、クラス内の華僑学生が多数派になる「僑生クラス」を作ったり、帰国華僑の教師を担任にしたりして、帰国華僑学生に便宜を図っていることも書かれている。

6月24日の記事（590624a）では、インドネシアから進学希望の華僑学生800名以上が、6月22

日に広州の黄埔港に到着したことが報じられている。彼らは、広州では「三元里華僑招待所」、「南方大廈」などにひとまず分かれて住み、旅の疲れを癒したのち、個人の希望によっては、同じく華僑補習学校のある北京、福建省の集美、汕頭などへと移っていく。広州に留まって中学進学を目指す者は、石牌の華僑補習学校へ移る。そして、7月14日から16日までのあいだに振り分けの試験を受け、採用されれば各地の学校へ進学する。また大学進学を目指す学生は、高校統一テストを受験する。

6月30日（590630a）の記事は、この6月22日に広州に着いた華僑学生たちについての続報である。彼らのなかには、すでに北京、集美へと別れて移動した者も多くあり、6月27日と28日に広州石牌の補習学校へ移ったのは、全員で230人になる。なお、7月4日の記事（590704a）によれば、広州の補習学校は、1954年の開設以来、1万8千人の学生を受け入れたという。

1959年の7月から8月にかけての『大公報』の記事のなかでは、華僑学生が各地で夏休みを楽しく過ごしていることを報じる記事がいくつか見られる。その夏休みの時期が終わる9月以降は、華僑学生の広州到着に関する記事がない。入試が終わり、新年度が始まって、華僑学生の留学（進学）シーズンが終わったためと思われる。

いっぽう、9月30日の記事（590930a）が報じているように、インドネシアの農村部で商店を開いている華僑商人は、この9月30日までに、閉店するか、インドネシア人（会社）に店を譲渡するか、法令の制限外の都市へ移って商売を続けるかの選択を表明することになっていた。そのため、法令の発効は1960年1月1日からであるが、9月から12月にかけての時期に、インドネシア華人の大きな移動の流れが起きることになった。

その間、『大公報』は引き続き、中国へ帰国したインドネシア華僑の動向を報道するほか、インドネシアで起きている華僑の窮状について多くを報道するようになる。しかし、それらの記事とは別に、『大公報』は香港の新聞であることの利点を生かし、香港に滞在したり、居住したりしているインドネシア華僑についての報道も行い、インドネシア華人の移動についての貴重な情報をもたらしている。以下では、そのなかのいくつかを紹介する。

11月5日の記事（591105b）は、インドネシアの華僑排斥が、香港とインドネシアのあいだの貿易に悪影響を及ぼしていることを報じている。インドネシア向けの香港の卸売業者によると、この2か月余りは香港での彼らの商売が半分停止した状態にある。インドネシアの輸入業者が香港に注文を出すことがなくなっているからである。その理由は、香港からの品物は、インドネシアの都市部の卸商に渡り、そこから、都市部の小売商へ渡るほか、都市部の卸商から農村部の小売商へも渡っていたが、この農村部の小売商が、在庫を処分して店を閉め、都市部へ移住する動きを見せているため、香港への注文が要らなくなったからである。

また別の11月5日の記事（591105c1）では、以下のように、香港からインドネシアへ戻る華僑商人の慌ただしい様子がよく示されている。

「新新社〔ママ〕のニュースによると、昨日広州から香港へ来たインドネシア華僑50余人は、9月半ばにインドネシアから中国の郷里に帰ってきていたが、ジャカルタやスラバヤへ行く客船『芝萬宜』に乗ろうと慌てて香港へやってきた。彼らはジャカルタやスラバヤで小さな

商売をしている人たちで、その地の華僑排斥の政策について聞き及び、今年の12月１日あるいは12月31日までに県以下の地区を出なければ、それから先には出られなくなるとか、いくらでも強奪してもいいことになるとか、悪いうわさを聞いて、慌ててインドネシアへ帰り、商売の様子を見たり、変化に対応したりするとのことである。」

11月９日の記事（591109b）は、「華僑が香港に帰って来てインドネシア華僑同胞の生活の苦境を訴える」という見出しが掲げられている。このインドネシアの「弁庄」（前出。インドネシアへ品物を卸す商人）が言うには、インドネシアの華僑排斥政策によってインドネシアの通貨の兌換率が低くなると同時に、シンガポールドルと香港ドルの兌換率が高くなり、香港に来て品物を仕入れる商人も会社もインドネシアでは少なくなった。インドネシアの華僑商人は、シンガポールやマラヤ、香港での商売へ移らざるをえない状況に置かれているという。

11月10日の記事（591110a）は、読者の「蘇島卡寧」〔ペンネームと思われる。「蘇島」はスマトラ島のこと〕が寄稿した「インドネシアは排華行動をやめるべきだ」という文章である。この文章の筆者は、インドネシアで生まれ育ち、最近になって香港へ来た人物で、この２年半を除き、スマトラ北部の都市に住んでいた。この人物は、インドネシアの排華政策に反対するという論を展開するうえで、自身の経験にも照らし、いかに華僑が今までインドネシア人と仲よくして、インドネシアの国家建設に貢献してきたのかということを、いくつもの具体的なエピソードをあげて示している。

この人物は、華僑の開設した学校で学び、インドネシアの国民学校でも学んだ。そして、スマトラ島の港から船に乗って、インドネシアを離れる時に、一緒に学んだインドネシアの友人たちが見送りに来て、「一路平安（SELAMAT DJALAN）」と祝福してくれたことを記す。そしてインドネシアに20年住んでいたことから生じる、インドネシアの習慣への深い愛着に言及し、香港の某レストランでカレーライス（「KALIMASI」）を食べる時、手でつかんで食べたら、もっとおいしいのにと思うと書いている。そして、華僑はインドネシアのどこにでもいて、華僑に対する尊称である「峇峇」という２文字の言葉は、どこでも聞くことができるという。華僑の商人は、土地の習慣を守り、現地の言葉でやりとりし、公平な商売をするため、その地の人々に歓迎されてきたという。さらに、ジャワ島に「紅河（SUNGAI MERAH）」という名の川があることを紹介し、オランダ人がインドネシアを侵略した時に、インドネシア人と華僑が共に戦い、華僑にも数千人の犠牲者が出て川が血に染まったことから、「紅河」という地名ができたと書いている。

Ⅴ　まとめ

本稿では、香港の中国語新聞『大公報』の1959年の記事から、1959年のインドネシア華人の移動を具体的に紹介した。当時帰国するインドネシア華人の多くは、スラバヤやジャカルタなど、インドネシアのいくつかの港を回って香港へ向かうジャワ会社の客船に、インドネシアのどこかの港から乗船し、まず香港へ行った後に陸路で深圳へ行って中国に入国し、それからしばらく広州に留まった後、中国各地へ分かれて移動したようである。インドネシアから海路で中国へ向か

った華僑には、多様な人々が含まれていた。本稿では、主として華僑農場に入植した人々や、中国で進学した人々を紹介したが、このほかにも、観光団として北京や広州や広東省、福建省の郷里などを訪れてインドネシアへ戻った人々、そのまま中国の郷里に定住した人々がいる。また、香港に着いた後に香港に定住した人々や、「水客」や「弁庄」として、香港とインドネシアを頻繁に往復していた人々もいた。そして重要なことには、このような中華人民共和国や香港と、インドネシアとの密接な関係を背景にして、この時代にインドネシア華僑が香港で中国製品を売るデパートを開業する動きもあった。

本稿の採用する、香港の中国語新聞を当時の中国の状況を知る資料として用いるという研究方法は、上述したステファン・フィッツジェラルドの研究に代表されるように、中国での現地調査の難しかった冷戦時代に「西側」諸国で用いられた方法である。この方法は現在においても有効であると考えられ、今世紀に入ってからも、カナダの歴史学者グレン・ピーターソンが、香港で冷戦時代の中国や香港の中国語新聞を参照して研究し、中国の帰国華僑についての研究書を最近著している［Peterson 2012］。しかしながら本稿の研究は、中華人民共和国の華僑政策に主として焦点をあてたフィッツジェラルドやピーターソンの研究とは関心を異にする。『大公報』が同時代資料として、今なお冷戦時代の研究にとって興味深い資料であることの理由は、『大公報』が単に中華人民共和国の政策を宣伝し、中国の動向を広報するだけのプロパガンダ新聞ではなく、読者である香港の住民にとって身近な話題であり、重要な関心事だと考えられる、華僑の生活や中国と東南アジアの貿易などの経済活動についての記事を多く載せていることによる。

例えば、2 月 3 日の記事（590203a、590205a）に見られる華僑新村のニュースは、インドネシアの華僑排斥政策が発表される前の、中国とインドネシアの関係がよかった時期の出来事ではあるが、管理委員会が食堂に東南アジアの料理のメニューを増やそうと考えていることや、インドネシアからの帰国華僑女性たちがインドネシア語でおしゃべりしながら働ける場を設けたことなど、帰国したインドネシア華人が自分たちになじみのあるインドネシア文化を保持しようとする工夫をしていることについて報じているように読める。また、最後に紹介した11月10日の記事（591110a）は、インドネシアの華僑排斥の報道が多く行われている最中の記事であるが、中国本土に帰国したのではなく、2 年以上も前に香港に定住したインドネシア華人が書いた「読者の声」である。そこでは具体的に現地で使われているインドネシア語の言葉がそのまま掲載されていて、この文章を読むと、その筆者や、この文章を載せた『大公報』、さらには香港の社会が、いかにインドネシアに関心を持っているのか、いかにその土着の文化に敬意を払っているのか、ということに驚かされもする。『大公報』の記事を丹念に見ることで、中国に一様な華僑政策があり、それに一様に対応するインドネシア華人がいたのではなく、インドネシア華人の移動に様々なパターンがあり、個々のインドネシア華人が、生活をしていくうえで様々な工夫の試みを個々に実践していたことが明らかになろう。

当時のインドネシア華人の全体像や、当時の国際関係についての理解が未だ乏しいために、本稿では些末な記事の紹介に終始し、広い視野からの考察を欠いた面もあるが、筆者は今後も引き続き1960年代の香港の中国語新聞の記事についての研究を進め、『大公報』がインドネシア華人の移動の研究にとって、今なお重要な資料であることを具体的に提示していきたいと考えている。

文献

（日本語・中国語）
黄昆章　2000『風雨滄桑五十年　第二次世界大戦後印尼華僑華人社会的変化』香港、丹青出版社。
芹澤知広　2011「『国貨公司』―冷戦時代における香港社会の一面」『総合研究所所報』第19号、45－65頁。
芹澤知広　2013「企画展示『香港の新聞「大公報」とその周辺Ⅱ』を担当して」『みささぎ　－奈良大学図書館報－』第16号、1－3頁。
大公報香港有限公司　1997『大公報創刊九十五周年　在香港復刊四十九周年紀年冊』香港、大公報香港有限公司。
田中恭子　2002『国家と移民　－東南アジア華人社会の変容』名古屋大学出版会。
中国国貨有限公司　1988『中国国貨有限公司成立五〇周年特刊』香港、中国国貨有限公司。
戊艸　2013「上世紀転載東南亜華僑学生回国的海輪」
http://www.alumnibazhong.org/2013/04/12/%E4%B8%8A%E4%B8%96%E7%BA%AA%E8%BF%90%E8%BD%BD%E4%B8%9C%E5%8D%97%E4%BA%9A%E5%8D%8E%E4%BE%A8%E5%AD%A6%E7%94%9F%E5%9B%9E%E5%9B%BD%E7%9A%84%E6%B5%B7%E8%BD%AE/　2013年９月23日参照。
麗的呼声日報　1959『香港工商業概覧』香港、麗的呼声日報。

（英語）
Fitzgerald, Stephen　1972 *China and the Overseas Chinese: A Study of Peking's Changing Policy, 1949-1970*, Cambridge: Cambridge University Press.
Goossens, Reuben　制作年不詳　"Royal Interocean Lines, Page One, MS Tjiwangi & Tjiluwah"
http://www.ssmaritime.com/tjiluwah.htm　2013年９月23日参照
Peterson, Glen　2012 *Overseas Chinese in the People's Republic of China*, Oxon: Routledge.

Summary

This paper aims to describe the return of the Overseas Chinese from Indonesia to China and their new life in China by referring to the articles of Ta Kung Pao, a Chinese newspaper in Hong Kong. After the communist revolution in 1949, many young Indonesian Chinese students moved to China to further their studies. Additionally, many Chinese residents left Indonesia for China after the official announcement of the Indonesian government to prohibit them from running retail shops in rural areas in Indonesia in 1959. They boarded ships bound for China and landed the ports of Guangdong province. Some of the Indonesian Chinese started their business selling Chinese Products in Hong Kong in 1950s. Hong Kong had always been an important port city of Guangdong province, but during the Cold-War era it also functioned as the special important trading hub for the Western countries in China. Ta Kung Pao was the representative Chinese newspaper for the pro-Communist China in Hong Kong at that time and it propagated the economic and social developments in China under the communist regime toward the Chinese residents in Hong Kong. Therefore the articles of Ta Kung Pao include many interesting stories of the Chinese who returned from Indonesia, including stories of their settling down in schools, overseas farms and the new villages.

Key words: Overseas Chinese, Indonesia, Chinese newspaper in Hong Kong

表　1959 年の『大公報』から抽出した「華僑」「国貨」関係記事一覧

整理番号	整理用タイトル	写真枚数	華僑/國貨	香港/中国/台湾/海外	国名/都市名　農場名
590101a	澳門國貨公司	2	國貨	香港	澳門
590102a	國貨展覽	1	國貨	香港	澳門
590109a	華僑食堂	1	華僑	中國	廣州黃花崗
590112a	國產皮手套	1	國貨	香港	九龍
590112a	華僑購票服務	1	華僑	中國	廣東
590112c	國產百貨	1	國貨	香港	
590117a	僑務	2	華僑	中國	福州
590118a	歸僑建設	1	華僑	中國	廣州
590118b	歸僑人物	3	華僑	中國	廣州
590118c	閩僑資公司	1	華僑	中國	福州
590119a	廣州日用百貨	1	國貨	中國	廣州
590119b	印尼華僑主席	1	印尼	華僑	北京
590120a	僑資建設	1	華僑	中國	梅縣，海南
590122a	僑資建設	1	華僑	中國	廣州
590124a	僑眷受騙	1	華僑	中國	深水埗，紅磡，荃灣等
590125a	僑胞教育	1	華僑	中國	廣州
590125b	中國傢私公司	2	國貨	中國	香港宵箕灣
590127a	印度國慶	1	印度	海外（印度）	印度
590129a	華僑招生	1	華僑	中國	灣仔堅尼地道，跑馬地布律活道，石塘咀山道，羅便臣道
590131a	僑胞服務	2	華僑	中國	廣州
590131b	國產百貨	1	國貨	香港	
590131c	國產劣貨	1	國貨	香港	
590202a	僑胞愛國	2	華僑	中國	北京
590202b	印尼麻袋	1	華僑	海外（印度）	印度尼西亞
590203a	文娛活動	1	華僑	中國	廣州
590205a	華僑食堂	4	華僑	香港	
590212a	農村團圓	2	華僑	中國	廣州
590212b	生活品質	2	華僑	中國	廣州
590212c	華僑投資海南	2	華僑	中國	廣州
590212d	僑眷聯歡	1	華僑	中國	廣州
590212e	國貨公司	1	國貨	香港	
590212f	國產百貨	2	國貨	香港	
590213a	僑胞婦女	2	華僑	中國	廣州
590213b	港客旅遊	1	華僑	中國	廣州
590214a	僑眷聯歡	1	華僑	中國	廣州
590214b	僑辦工廠	2	華僑	中國	福州晉江，同安，廣州，廣東新會
590214c	旅美華僑	2	華僑	香港	
590215a	華僑建設	1	華僑	中國	福建南安

590215b	香港肺病	1	華僑	香港	九龍
590215c	華革會員聯歡	2	華僑	香港	石塘
590215d	國產春貨	2	國貨	中國	北京 , 廣州
590216a	華僑勞働	1	華僑	中國	廣州
590216b	海外閩僑談建設	1	華僑	中國	福州
590216c	華僑農場	2	華僑	中國	廣州
590216d	國產百貨	1	國貨	海外	新加坡 , 印尼
590216f	國產百貨	1	國貨	香港	九龍
590217a	工農展覽	2	華僑	中國	廣東五華縣
590217b	華僑中學開幕	1	華僑	香港	澳門
590217c	印尼駐港領事館	1	華僑	香港	
590218a	僑資工廠	1	華僑	中國	汕頭
590218b	華僑投資家鄉	1	華僑	中國	廣州
590219a	僑資	1	華僑	台灣	
590222a	閩鄉同歡	1	華僑	中國	福建
590223a	僑胞居住	1	華僑	中國	廣州
590224a	僑胞遊觀家鄉	1	華僑	中國	福建
590225a	華洋百貨	1	國貨	中國	汕頭
590227a	華僑	1	華僑	海外	加拿大
590228a	華僑觀雜技	1	華僑	香港	澳門
590228b	雜技團	1	華僑	香港	澳門
590301a	僑資公司	1	華僑	中國	廣州
590301b	國產藥酒	2	國貨	中國	北京
590304a	華僑服務	2	華僑	中國	福州
590306a	華僑婦女辦廠	2	華僑	中國	廣州
590307a	僑生補習	1	華僑	中國	廣州
590308a	華僑旅店	1	華僑	中國	廣州
590308b	僑眷勞動成績	1	華僑	中國	福州
590309a	僑眷表揚	1	華僑	中國	北京
590311a	何香凝	2	華僑	中國	廣州
590311b	華僑寄書	2	華僑	中國	廣州
590315a	華僑投資公司	1	華僑	中國	廣東
590316a	華僑代表會議	1	華僑	中國	廣州
590317a	國產化妝品	1	國貨	香港	
590318a	僑務	3	華僑	中國	北京
590318b	華僑僑生	1	華僑	中國	廣州
590319a	華僑大廈	1	華僑	香港	梅城
590319b	勞模	1	華僑	中國	晉江縣
590319c	裕華國貨公司	1	國貨	香港	德輔道中
590320a	國產貨	1	國貨	香港	
590321a	僑生就學	2	華僑	中國	廣州 , 汕頭

590321b	華洋百貨聯歡	1	華僑	香港	九龍
590322a	廈門僑資工廠	2	華僑	中國	廈門
590323a	浙江僑眷投資	1	華僑	中國	浙江
590323b	新新國貨公司	1	國貨	香港	九龍
590324a	僑胞寄衣贈款	2	華僑	海外	加拿大
590326a	僑眷辦中小型工廠	2	華僑	中國	廣州
590330a	上海歸僑積極分子	2	華僑	中國	上海
590330b	華僑水電	1	華僑	香港	開平縣
590330c	華僑新村	1	華僑	中國	廣州市東北邊
590401a	粵省僑資公司分佈	1	華僑	中國	廣東省
590401b	粵省僑資新企業	1	華僑	中國	廣東省
590401c	華僑農場	2	華僑	中國	海南島，中
590401d	華僑旅行服務	1	華僑	中國	廣州
590401e	華僑返穗二百多	1	華僑	中國	廣州
590401f	歸僑捐資	1	華僑	中國	廣州中山縣
590402a	粵省僑資公司	1	華僑	中國	廣東省
590402b	廣州僑資工廠	1	華僑	中國	廣州
590402c	出口交易	1	華僑	中國	廣州，廣州市
590411a	華州華僑新村	1	華僑	中國	廣州，廣州市
590412a	華僑愛國大橋	1	華僑	中國	廣州，汕頭市
590416a	華僑返穗５百多	1	華僑	中國	廣州
590418a	華僑和港澳同胞	1	華僑	中國	北京
590418b	四千港澳同胞回鄉	1	華僑	中國	廣州中山縣
590421a	廈門建華橋大廈	1	華僑	中國	廈門
590422a	海南僑鄉農場	1	華僑	中國	廣東
590422b	僑鄉新人新事	1	華僑	中國	海南島
590425a	歸僑創造發明	1	華僑	中國	北京
590426a	僑務工作成績	2	華僑	中國	北京
590501a	粵閩華僑旅行團	1	華僑	中國	廣州，廣東省
590503a	元朗新新公司開張	1	國貨	香港	新界
590506a	僑鄉集鎮市場	1	華僑	中國	晉江縣
590507a	歸僑行李優待	1	華僑	中國	北京
590508a	華僑旅行團	1	華僑	中國	廣東省
590509a	農村小型電站	1	華僑	中國	廣東省
590512a	裕華百貨公司	1	國貨	香港	中港澳
590514a	僑務工作概況	2	華僑	中國	北京
590515a	華革明有聯歡	1	華僑	中國	假石塘
590516a	僑鄉普寧景象	1	華僑	中國	普寧縣
590517a	華僑博物院	2	華僑	中國	廈門市
590522a	廈門華僑中小學	1	華僑	中國	廈門市
590522b	僑鄉開物資交流會	1	華僑	中國	廣東省

590524a	穗華僑新村	1	華僑	中國	廣州
590524b	華僑博物院	1	華僑	中國	廈門市
590525a	海風華僑投資	1	華僑	中國	廣州
590526a	裕華國貨公司	1	國貨	香港	德輔道中
590526b	國貨好書	1	國貨	香港	澳門
590526c	裕華國貨公司	1	國貨	香港	德輔道中
590527a	印尼華僑回國	2	華僑	中國	廣州 , 梅縣
590528a	四個華僑農場	1	華僑	中國	廣東省
590530a	海南僑資公司	1	華僑	中國	廣東省
590530b	華革 10 周年	1	華僑	香港	九龍
590601a	六百僑生回國	1	華僑	中國	廣州 , 北京 , 廈門
590601b	歸僑 14 多人	2	華僑	中國	廣州
590601c	國貨好書	1	國貨	香港	澳門
590603a	廣州華僑小學	1	華僑	中國	廣州
590604a	廈大華僑招收	2	華僑	中國	廈門
590605a	建華僑大廈	1	華僑	中國	廣東省
590606a	台山歸僑僑眷	1	華僑	中國	廣州
590607a	江門華僑旅行社	1	華僑	香港	江門市
590608a	僑生學業進步	1	華僑	中國	廣東
590608b	江門與華僑	2	華僑	香港	江門市
590609a	成立華僑商店	1	華僑	香港	新會縣
590612a	新住宅區供華僑	1	華僑	香港	新會縣
590615a	閩西僑鄉工廠	1	華僑	中國	福州 , 龍岩縣
590616a	陸豐華僑農場	1	華僑	中國	廣州 , 陸豐
590619a	僑辦廠遍佈	1	華僑	中國	福建省 , 晉江
590620a	汕頭華僑新村	1	華僑	中國	汕頭市
590621a	石獅華僑工藝廠	2	華僑	中國	福建省 , 晉江
590621b	華僑 , 僑生自印尼返國	1	華僑	香港	
590623a	僑眷歸僑修橋鋪路	1	華僑	中國	福州 , 安溪縣
590624a	印尼華僑學生抵穗	1	華僑	中國	廣州
590624b	三埠華僑大廈	2	華僑	中國	開平 , 廣東省
590624c	台山農村已辦華僑中學	1	華僑	中國	台山縣 , 廣東州
590627a	粵各僑鄉市場活躍	1	華僑	中國	廣州 , 汕頭
590627b	華僑商店高級品供應	1	華僑	中國	廣東省
590630a	港澳考生首批抵穗	1	華僑	香港	廣州
590630b	華章國貨公司	1	國貨	香港	大道西
590701a	華章國貨公司開幕	1	國貨	香港	大道西
590701b	華章國貨公司特價	1	國貨	香港	大道西
590704a	接待歸僑僑生	1	華僑	中國	廣州 , 廣東省
590704b	粵省僑委會水災慰問	1	華僑	中國	廣州 , 廣東省
590705a	僑生成績提高	1	華僑	中國	廣州省

590706a	華僑棉紡廠	1	華僑	中國	廣東，台山線
590708a	華僑中學增班額	1	華僑	香港	
590710a	東莞僑鄉災後重建	1	華僑	中國	廣東，東莞縣
590711a	國家大力支持，建華僑新村	1	華僑	中國	福州，福建省
590712a	中僑公司慶周年	1	華僑	香港	九龍
590714a	國營穗百貨商店	1	國貨	中國	廣州
590715a	福州華僑旅行社	1	華僑	中國	福州
590716a	華僑在國內建房屋	1	華僑	中國	北京
590717a	華僑，僑眷參觀製片廠	2	華僑	中國	北京
590720a	揭陽辦華僑服務社	1	華僑	中國	揭陽縣
590720b	暨南大學座談會	1	華僑	中國	廣州，廣東省
590722a	僑資興辦企業	2	華僑	中國	福州，福建省
590723a	僑戶收投資本息	1	華僑	中國	新會縣
590725a	穗歸僑眷貢獻大	1	華僑	中國	廣州市
590728a	福建常山華僑農場	1	華僑	中國	福建省，常山
590730a	廣州百貨店員生活愉快	1	國貨	中國	廣州
590730b	廣西僑鄉容縣等地	2	華僑	中國	廣西
590730c	廈門僑生過暑假	2	華僑	中國	廈門市
590731a	廣州僑生暑期歡樂	1	華僑	中國	廣東省
590731b	華僑學生遊覽	1	華僑	中國	廣州
590801a	廣東歸僑暢遊祖國	1	華僑	中國	廣東
590803a	廈門僑資工廠	1	華僑	中國	廈門
590803b	華僑小學生	3	華僑	中國	廣州
590805a	華僑小學學生	1	華僑	中國	廣州
590806a	僑眷享用僑匯	1	華僑	中國	福州，晉江
590807a	古田新城擴大	1	華僑	中國	古田縣
590811a	歸僑俱樂部成立	1	華僑	中國	廣州
590811b	保護僑匯六點政策	2	華僑	中國	廈門
590813a	僑生成績佳	1	華僑	中國	福清
590814a	福建省僑聯會成立	1	華僑	中國	福建省
590814b	穗百貨生意興隆	1	華僑	中國	廣州
590815a	閩西僑辦中學發展	1	華僑	中國	福州，永定縣
590816a	老華僑獲安置	1	華僑	中國	廣州
590817a	僑生大聯歡	1	華僑	中國	廣州
590817b	閩僑生暑期生活樂	1	華僑	中國	福建省
590817c	龍岩籌建華僑新村	1	華僑	中國	龍岩縣
590820a	福建華僑投資公司	1	華僑	中國	福建省
590827a	廣州華僑新村	1	華僑	中國	廣州
590904a	僑務報編輯室	1	華僑	中國	北京
590905a	人民公社和僑務政策	1	華僑	中國	北京
590907a	北京華僑大廈	1	華僑	中國	北京

590923a	僑胞返國參加國慶	1	華僑	中國	廣東
590923b	華革慶祝	1	華僑	香港	澳門
590926a	中國國貨公司	2	國貨	香港	軒尼詩道
590928a	華僑港澳代表	2	華僑	中國	北京
590929a	盛宴招待華僑	1	華僑	中國	北京
590929b	廣州歸僑聯歡	1	華僑	中國	廣州
590929c	中國國貨公司	2	國貨	香港	軒尼詩道
590930a	華僑商人困難	2	華僑	印尼	雅加達
590930b	巴黎華僑慶祝	2	華僑	法國	巴黎
590930c	上海華僑公寓	1	華僑	中國	上海
591001a	僑鄉氣象繁榮	1	華僑	中國	
591001b	奥慶祝國慶	1	華僑	中國	廣東
591001c	汕頭僑務	3	華僑	中國	廣東 , 汕頭市
591001d	廣東僑務工作	3	華僑	中國	廣東 , 廣州
591001e	華僑投資	3	華僑	中國	
591004a	招待華僑港澳同胞	1	華僑	中國	北京
591005a	粵閩僑鄉歡祝國慶	1	華僑	中國	廣東 , 汕頭市
591006a	華僑特種商店	1	華僑	中國	廣州
591007a	僑眷支持人民公社	1	華僑	中國	北京
591008a	華僑在僑居地權	1	華僑	中國	北京
591009a	華僑港澳各地參觀	1	華僑	中國	北京
591015a	僑眷讚揚公社	1	華僑	中國	廣東
591016a	僑聯大廈開幕	1	華僑	中國	廣州 , 南海縣
591023a	華僑讚閩省建設	1	華僑	中國	福州
591029a	老華僑讚祖國躍進	1	華僑	中國	廣東 , 普寧縣
591029b	廣州華僑堂	1	華僑	中國	廣州
591030a	仿製汽車歸僑興奮	2	華僑	中國	廣州 , 梅縣
591030b	歸僑勞動英雄	1	華僑	中國	福州 , 福建
591102a	印尼法令實施	1	華僑	中國	泗水
591105a	不力於華僑	2	華僑	印尼	
591105b	印尼排華	1	華僑	印尼	
591105c	印尼排華不智	1	華僑	印尼	
591106a	華僑讚揚國貨	2	華僑	中國	
591109a	華僑在印尼	1	華僑	中國	
591109b	印尼排華影響貿易	2	華僑	印尼	
591110a	印尼應制止排華	1	華僑	印尼	
591110b	華僑不是殖民主義者	1	華僑	印尼	
591114a	印尼商業部新規	1	華僑	印尼	
591117a	僑胞參觀各地	3	華僑	中國	北京
591118a	華僑讚揚公社	1	華僑	中國	海澄縣
591119a	金字塔的基礎	1	華僑	印尼	

591120a	廣州面貌煥然一新	1	華僑	中國	廣州
591121a	東莞僑鄉寮步公社	1	華僑	中國	廣東 , 東莞
591127a	閩省僑鄉	1	華僑	中國	福建
591129a	華僑大廈	1	華僑	中國	潮陽縣
591130a	歸僑幹勁強旺	1	華僑	中國	廣州
591202a	印尼禁令不改	1	華僑	印尼	
591203a	閩籍華僑	1	華僑	中國	福州 , 福建
591204a	印尼決定登記	1	華僑	印尼	
591204b	廈門華僑大廈	1	華僑	中國	福州 / 廈門
591204c	僑眷晚稻試驗	1	華僑	中國	福建
591205a	歸僑力爭上游	1	華僑	中國	廣東
591206a	印尼軍警在開槍	1	華僑	印尼	
591207a	印尼華僑痛述	1	華僑	印尼	
591207b	華僑商店高級品供應	1	華僑	中國	廣州 , 潮山
591207c	訪沙滘僑鄉	1	華僑	中國	沙滘僑鄉
591208a	印尼迫害	1	華僑	印尼	雅加達
591209a	印尼華僑	1	華僑	印尼	西爪哇
591209b	西爪哇警開槍	2	華僑	印尼	西爪哇
591209c	閩南華僑農場	1	華僑	中國	廣東 , 福建
591210a	華僑被印尼判刑	1	華僑	印尼	西爪哇
591210b	國產皮衣手套	2	國貨	香港	港九
591211a	台警謀殺老華僑	1	華僑	台灣	台北
591211b	國產皮衣手套	1	國貨	香港	港九
591212a	印尼三項建議	1	華僑	中國	北京
591212b	大批華流離	2	華僑	中國	
591212c	雙重國籍問題	3	華僑	中國	
591212d	中印尼關係	1	華僑	中國	
591212e	數度同印尼交涉	1	華僑	中國	
591212f	改變中立政策	2	華僑	印尼	雅加達
591212g	印尼排華記	2	華僑	印尼	
591213a	促印早開談判	2	華僑	中國	
591213b	僑領支持	2	華僑	中國	
591213c	陳毅外長建議	1	華僑	中國	
591214a	華僑熱烈支持	2	華僑	中國	
591214b	被迫回祖國華僑	2	華僑	中國	廣州
591214c	對華僑施暴	1	華僑	印尼	西爪哇
591215a	印尼排華法令不改	1	華僑	印尼	雅加達
591215b	僑胞光明前途	1	華僑	中國	福建
951215c	關心僑胞處境	1	華僑	中國	北京
951215d	華僑農場場員譴責	1	華僑	中國	海南島
951215e	華僑農場歡迎僑胞	1	華僑	中國	廣西

951215f	排華活動	1	華僑	中國	廣東, 廣州市
951215g	華僑雙重國籍	1	華僑	中國	
951216a	歸僑三十萬人	1	華僑	中國	北京
951216b	粵歡迎印尼歸僑	2	華僑	中國	廣東省
951216c	印尼頒布條例	1	華僑	印尼	雅加達
951216d	朋友, 你錯了	2	華僑	中國	
951216e	印尼歸僑訴述	3	華僑	中國	廣州
951217a	陳嘉庚抗議排華	3	華僑	中國	上海
951217b	譴責印尼排華	1	華僑	中國	北京
951217c	華僑有祖國	1	華僑	中國	
951218a	上海華僑慰問印尼同胞	2	華僑	中國	上海
951218b	印尼華僑備受關懷	1	華僑	中國	廣州
951218c	歸僑抗議排華	2	華僑	中國	上海
951218d	印尼排華	1	華僑	中國	北京
951218e	建樓房安置回國印尼華僑	2	華僑	中國	華山
951219a	印尼應制止排華	2	華僑	中國	上海
951219b	聯繫國外華僑	2	華僑	中國	
951219c	印尼華僑回福清	1	華僑	中國	福建省, 福清縣
951220a	印尼應早接受	3	華僑	中國	
951220b	海南島接納五十萬華僑	1	華僑	中國	海南島
951220c	招待歸僑一切物品免稅	1	華僑	中國	
951220d	印尼華僑遭迫害	1	華僑	中國	廣州
951221a	菲排華措施	1	華僑	菲律賓	
951221b	梅縣歡迎印尼華僑	1	華僑	中國	廣東, 梅縣
951222a	僑聯慰問印尼	3	華僑	中國	上海
951222b	要求印尼談判	2	華僑	中國	
951223a	印尼歡迎華僑留住	1	華僑	印尼	東加里曼丹
951226a	陳毅促印尼談判	3	華僑	中國	
951228a	歸僑在穗就業	1	華僑	中國	廣州
951228b	廣東一千多個公社	1	華僑	中國	廣州, 廣東
951228c	華僑學生抗議排華	1	華僑	中國	海南島
951229a	閩安置七萬多歸僑	1	華僑	中國	福州, 福建
951229b	台山僑資工廠	1	華僑	中國	台山縣, 廣東州
951229c	華僑與印尼人民	1	華僑	中國	
951229d	今年百貨生意平穩	1	國貨	香港	港九
951230a	又一批華僑判刑	1	華僑	印尼	雅加達
951230b	秋收後生活改善	1	華僑	中國	泉州, 晉江
951231a	印尼經濟無改善	1	華僑	印尼	